



上田市議会議員
佐藤のりゆき
佐藤 論 征

後援会報

6月定例会報告

2019年6月定例会号
佐藤のりゆき後援会
発行責任者 森山 和
上田市真田町長 3576-1
TEL 0268-72-5666
FAX 0268-72-2622

令和元年6月定例会

上田市議会令和元年6月定例会が6月10日から会期22日で開会

上田市公文書館条例制定

上田市公文書館 令和元年9月1日開館

現在、旧市町村時代からのものも含め上田市の公文書は、各自治センターや図書館などでそれぞれ保管されております。この公文書の保管について、管理制度を確立し適切に保存を行うとともに、市民が主体的に利用できる仕組みを確立するため丸子地域（東内）の丸子郷土博物館に公文書館を併設することとなりました。併設のための改修工事は既に終了しており、9月1日に開館いたします。地方自治法及び公文書館法の規定に基づき、設置及び管理に関する条例が制定されました。



丸子郷土博物館

消費税改定に伴う使用料等の改定

10月1日に予定されている消費税の税率引き上げに伴い、市有施設等の使用料等の改定についてそれぞれ議案として提出され、可決されました。6月定例会時点においては、税率の引き上げは最終的な確定ではないものの、10月1日税率引き上げまでの市民の皆さんへの周知等を考慮し6月定例会で可決。施設使用料、水道料金道路占用料、市営駐車場定期使用料、真田地区有線放送電話使用料などが対象。また、上田広域連合議会においても消費税改定に伴う使用料等の改定に関する議案が臨時議会において可決成立いたしました。上田広域連合議会においては、創造館の使用料等が対象。

上田市太陽光発電設備の適正な設置に関する条例制定

太陽光発電設備の設置について、適した場所への導入を図り、市民の生命及び財産の保護、良好な景観の形成並びに豊かな自然環境及び生活環境の保全を図ることを目的に制定。条例では、太陽光発電設備の設置について、特に配慮が必要と認められる区域を「抑制区域」として指定しています。条例が適用される太陽光発電設備設置事業は、抑制区域内で設置する太陽光発電設備の事業区域の面積が、1,000平方メートル以上、かつ、発電出力が50キロワット以上のものが対象となります。今回は条例として制定されたものの、罰則等を伴う条例でないため、実際にどこまでの効力があるかは今後検証をしていく必要があります。上田市では太陽光発電設備設置候補地において、地域住民の皆さんの合意が得られていないケースがある状況です。



プレミアム付商品券事業 補正予算
2億4,191万3千円

消費税10%への引き上げの低所得者・子育て世帯に対する影響緩和と、地域における消費の喚起・下支えを目的として、プレミアム商品券を販売する。財源は全て国。上田市では、2019年度住民税非課税者28,000人分と2016年4月2日～2019年9月30日までに生まれた子どもが属する世帯の世帯主4,000人分、合計32,000人分を購入対象者とし事業補助金として1億6,000万円を計上。そのほか事業に係る賃金・委託料等事務費として8,191万3千円、合計2億4,191万3千円を予算化。割引率20%（券面額25,000円を20,000円で販売）。

購入方法・使用方法

上田市から対象者の方に申請書が郵送され、必要事項を記入し提出すると購入引換券が郵送されてきます。市内の郵便局で購入引換券と引き換えに購入できます。商品券は対象の取扱店舗のみで使用可能です。また、使用可能な期間が令和元年10月1日（火曜日）～令和2年3月31日（火曜日）となっています。

武石地域総合センター整備事業 武石地域自治センターが武石地域総合センターとして生まれ変わります

武石地域自治センターは、武石村役場として昭和36年に建設されてから58年が経過し、建物全体や電気設備等の老朽化、社会情勢の変化に伴うさまざまな機能の不備もさることながら、防災・災害復興時の拠点施設であるべき庁舎の構造が、耐震基準を満たしていないことも大きな課題になっておりました。こうした状況を踏まえ、これまでさまざまに検討がなされ、将来の人口減少を見据えつつ、これからの時代にふさわしい地域の拠点施設を準備し住民サービスと行政効率の向上を図るため、周辺の公共施設である武石公民館、武石健康センター、武石老人福祉センター寿楽荘を集約して「武石地域総合センター」として整備します。



完成予想図

武石地域総合センター整備事業建築主体工事

5億7,558万6千円

武石地域総合センター建築主体工事について、市議会の議決を経て、令和元年7月1日に工事請負契約が締結されました。令和元年7月29日に安全祈願祭・起工式が執り行われ、工事が始まりました。

建築用武石財産区産製材の購入

1,298万円

武石地域総合センター建築に、地元木材（武石財産区産認証材）が活用されます。武石財産区産製材の購入費が予算化。



老朽化が著しい現在の武石地域自治センター（旧武石村役場）昭和36年建設

佐藤のりゆきホームページ

<http://www.noriyuki-sato.com>

上田市議会議員 佐藤のりゆき 検索

スマートフォンからもご覧いただけます

庁用中型バス購入

補正予算
2,002万円

真田自治センターの庁用中型バスの老朽化に伴い、新しく中型バスを購入。財源は真田地域出身の方のご寄付の一部を活用。昨年度5,000万円ものご寄付をいただいております。

生ごみリサイクル推進事業

補正予算
77万6千円

廃棄物処理審議会を設置し、生ごみリサイクルシステムの構築を検討するための予算を計上。

農業生産力強化対策事業補助金

補正予算
40万8千円

県の補助を活用して信州うへだ農業協同組合が実施するそば乾燥調製施設整備事業に対して、上田市及び青木村が上乗せ補助する。補助率：2/10（うち上田市負担割合27.8%）

森林環境譲与税基金積立金

補正予算
2,130万円

新たに創設された森林環境税を財源として配分される森林環境譲与税について、市が実施する間伐や木材利用促進等の森林整備及びその促進に関する費用に充当するために基金を設立し積み立てる。

サテライトオフィス開設事業補助金

補正予算
300万円

首都圏の企業等が市内にサテライトオフィスを整備する経費に対する補助

サテライトオフィスとは、企業が本社から離れた場所に設置するオフィスのことを指します。「サテライト」とは英語の「satellite（衛星）」のことを指し、本社を中心として衛星のように存在するオフィスとしてその名前が付けられています。そして、現在企業の組織のありかたについてサテライトオフィスの導入が大きな注目を集めています。

消防団運営事業

補正予算
230万4千円

国が実施する消防団設備整備費補助金（消防団救助能力向上資機材緊急整備事業）は、災害時における消防団のより効果的な救助活動を図るため、配備が進んでいない救助用資機材等の整備を促進する国庫補助金として、3年間に限り、臨時特例的に創設したものです。この補助金について、上田市消防団に対し国からの補助内示に伴う備品購入費を計上。今回購入する備品としては、チェーンソー20台、油圧ジャッキ28台。

三豊市 燃えるごみを焼却せず固形燃料としてリサイクルする取り組みを視察

政務活動費を活用させていただき、焼却施設を全廃し、燃えるごみを微生物により発酵させ、発酵熱により乾燥させ固形化燃料の原料として活用する全国初の処理（トンネルコンポスト方式）をしている香川県三豊市を視察してまいりました。現在、上田地域広域連合では、資源循環型施設建設に向け取り組んでおりますが、上田地域広域連合では、ストーカー式焼却炉という最も多く採用されている焼却炉を採用する方針です。将来新たなごみ処理の方法も視野に入れごみ問題に取り組んでいかなければなりません。三豊市では、市長の強い意志の下、短期間でこの方式を採用するに至っております。トンネルコンポスト方式の有効性を感じるとともに、市長の強い意志の下でごみ処理の方針を決定していく姿勢が非常に参考となりました。

燃えるごみ固形燃料原料化施設
バイオマス資源化センターみとよ



平成29年4月1日から稼働開始。三豊市の家庭や事業所から出る燃やせるごみを発酵・乾燥させて「固形燃料」の原料としてリサイクルする日本初の工場。これまで焼却処理してきた燃やせるごみが、エネルギーに生まれ変わります。この施設の稼働で、従来使用していた焼却炉を全廃し、現在三豊市には焼却炉はありません。

バイオマス資源化センターは民間の施設です。三豊市からの業務委託によりごみ処理を行う施設です。当然のことながら、施設の建設は運営会社により建設されました。三豊市は焼却しないごみ処理の方式を民間から募集し、この方式を採用し委託先としました。当然のことながら、施設建設については市の予算は使っていません。

トンネルコンポスト方式による燃えるごみ処理の流れ

処理施設建設コスト・運営コスト共に低コスト 仕組みも非常にシンプル

ごみの受入れ



発酵・乾燥



固形燃料用原料

固形燃料製造工場

固形燃料



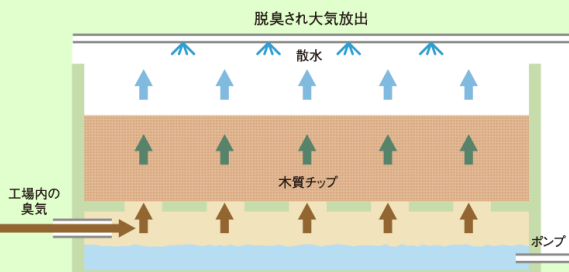
家庭系一般廃棄物・事業系一般廃棄物
燃やせるごみ
ごみを受け入れ、発酵・乾燥のトンネルへゴミを詰める

燃やせるごみのうち、生ごみなどの発酵するごみを微生物により発酵させることにより、発酵熱が発生し、この熱により全体が乾燥する

圧縮し固形燃料化
固形化は外部の工場

固形燃料は専用のボイラー等で使用可能 三豊市の固形燃料は製紙工場の燃料として使用
固形燃料は臭気が全くない

臭気対策として、場内の排気は全て木製チップを使用したバイオフィルター（吸着・微生物分解により脱臭）を通り外へ出る仕組みとなっており、排気場所を実際に見学したところほとんど臭気はない状況でした。このバイオフィルターは様々な臭気対策として使用できることから、既にこのバイオフィルターを導入することを決定した団体があり、運営会社が設置に当たるそうです。



みんなで考えようごみ問題

上田市における資源循環型施設建設については、全市民の問題です。まずは一人一人ができることから取り組むことが大切です。ゴミ減量が第一歩です。全市民で真剣に考えましょう。

